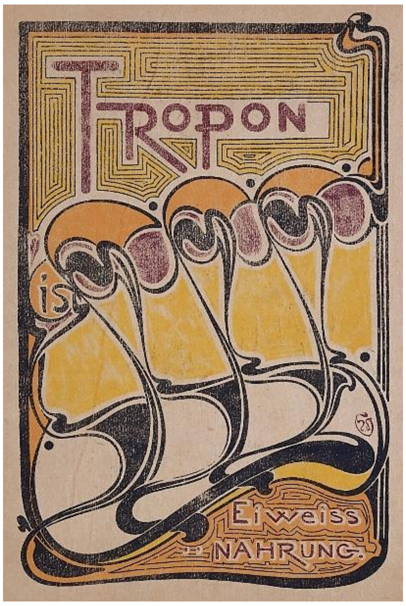
めぐるアール･ヌーヴォー展
モードのなかの日本工芸とデザイン

The Cyclical Nature of Art Nouveau and the Stylistic Influence of Japanese Crafts and Design

2021年12月25日［土］ — 2022年3月21日［月・祝］

展覧会概要

図版No.1　展覧会ポスター



図版No.2　アンリ・ヴァン・ド・ヴェルド
《トロポン》　1898年頃

アール・ヌーヴォーはめぐる？
東洋と西洋の出会いから生まれた
美の循環を約150点の作品で紹介

　フランス語で「新しい芸術」を意味するアール・ヌーヴォー。その様式の特徴は、植物などの有機的なモチーフに由来する曲線を多く用いる優美な装飾性にあります。アール・ヌーヴォーは、19世紀末から20世紀初頭にかけて広くヨーロッパで流行しましたが、その誕生に影響を与えたのは、遠く離れた日本の美術でした。日本人にとってのアール・ヌーヴォーは、文字通り、最先端の芸術運動を意味するとともに、西洋のモード――新しい様式とその流行――に還流した、みずからの姿を映しだす鏡でもあったのです。

　本展では、アール・ヌーヴォーの時代を代表するアンリ・ヴァン・ド・ヴェルド（1863-1957）やアルフォンス・ミュシャ（1860-1939）の作品、そしてアール・ヌーヴォー風の表現を取り入れた初代宮川香山（1842-1916）や杉浦非水（1876-1965）など、同時代の日本の工芸やデザインの展開をご紹介します。さらに、アール・ヌーヴォーの源泉としての日本美術にも着目し、そこに通底する自然への眼差しが現代にまで受け継がれる様相を多彩な作品でたどります。

　今回の展覧会では、東京国立近代美術館のコレクションに加えて、京都国立近代美術館が所蔵する関連作品も展示し、アール・ヌーヴォーをさまざまな視点から考えます。異なる文化が出会い、めぐりめぐって互いに響きあうダイナミズムや、すぐれた工芸品を生み出す日本の繊細な感性に触れる機会となるでしょう。

展覧会のポイント

- キーワードは、「めぐる」。
- 国内外の作家による、十人十色のアール・ヌーヴォーが大集合。
- 日本美術のすごさの秘密を、近代工芸で再検証。

詳細は次ページへ

展覧会のポイント詳細

◆キーワードは、「めぐる」。

日本美術は19世紀後半の西洋に大きな衝撃を与え、そしてジャポニスムの流行に影響を受けてアール・ヌーヴォーが誕生しました。ひるがえって、ジャポニスムの母胎となった日本では、多くの美術家たちがアール・ヌーヴォーを最先端の美術として受け入れました。本展では、異なる文化の出会いと、その還流が生み出した豊かな表現を、この「めぐる」という興味深い現象に焦点をあててご紹介します。

◆アンリ・ヴァン・ド・ヴェルド、アルフォンス・ミュシャ、エミール・ガレから、杉浦非水、浅井忠、神坂雪佳、初代宮川香山、板谷波山まで。十人十色のアール・ヌーヴォーが大集合。

1860年代から1920年代まで、ジャポニスムからアール・ヌーヴォーにいたるヨーロッパの装飾芸術の流れと、アール・ヌーヴォーを受容した日本美術を、代表的な作家の作品で概観します。本展では、京都国立近代美術館の所蔵作品もあわせて展示し、多様な作品からアール・ヌーヴォーの姿をご覧いただきます。

◆日本美術のすごさの秘密を、近代工芸で再検証。

19世紀後半のヨーロッパの人々は、なぜそれほど日本美術に熱狂したのでしょう。その理由のひとつは、当時の西洋の価値観ではとらえきれない日本人の自然観が、美術にも率直に表れていたことにあります。そして、自然の中で季節を感じる暮らし方は、はるか昔から日本の文化として受け継がれ、今なお息づいています。本展では、すぐれた工芸コレクションを通して、日本の工芸の特質を改めて見直します。

展示構成

1. 日本のインパクトと〈新しい芸術（アール・ヌーヴォー）〉の誕生

19世紀後半、開国後の日本を訪れた外国人の眼を通して、あるいは日本からもたらされた浮世絵や工芸品などによって、日本の姿が次第に知られるようになると、ヨーロッパ各国でジャポニスムが流行しました。従来の西洋美術におけるものの見方を転換させてしまうほどの新鮮な驚きを与えた日本美術は、新しい芸術表現を模索する人々のよりどころとなりました。まさにそうした時代のなかで、はぐくまれたのがアール・ヌーヴォー（新しい芸術）と呼ばれる装飾様式でした。

アンリ・ヴァン・ド・ヴェルド、アルフォンス・ミュシャ、エミール・ガレ、ルネ・ラリックなど当時の代表的な作家を紹介するとともに、その流行に素早く反応したことがうかがえる同時代の初代宮川香山や、二代横山彌左衛門、大島如雲らの作品もあわせて展示します。

図版No.3
アルフォンス・ミュシャ
《サラ・ベルナール》　1896年

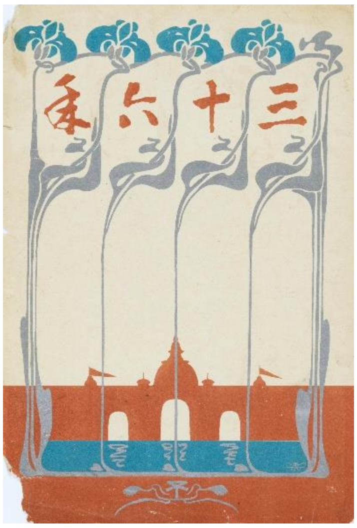
図版No.4
初代宮川香山《色入菖蒲図花瓶》
1897-1912年頃

図版No.5
二代横山彌左衛門《菊花文飾壺》　1886-89年頃

2. アール・ヌーヴォーの先へ、図案家たちが目指したもの

　1900年前後の日本の画家や図案家は、雑誌などの印刷メディアを通して、あるいは実際にパリの街中や博覧会場を席捲する様子を見聞きすることで、アール・ヌーヴォーと出会いました。ここではその例として、日本のアール・ヌーヴォー受容において重要な作家である杉浦非水と、アール・ヌーヴォー全盛期にヨーロッパに滞在した浅井忠と神坂雪佳の周辺に注目します。

　一口にアール・ヌーヴォーと言っても、その表現は実にさまざま。日本の図案家や工芸家たちがアール・ヌーヴォーに何を見出し、何を採り入れ、そしてその先に彼らが何を求めていたのかを探ります。



図版No.6
杉浦非水『三十六年』 第1号
1902年

図版No.7
杉浦非水《三越呉服店　新館落成》
1914年

図版No.8
四代清水六兵衛《萱艸模様螺鈿応用花瓶》
1913年頃　京都国立近代美術館蔵

3. 季節がめぐる工芸、自然が律動するデザイン

　ジャポニスムの立役者の一人であるジークフリート（サミュエル）・ビング（1838-1905）は、「〈自然〉という名の信頼すべき案内者こそ、彼ら（日本人）が尊敬する唯一の師であり、その教訓こそ、汲めども尽きぬ霊感の泉なのだ*」と、熱を込めた文章で日本美術の美点を賞賛しました。

　一方で、日本の工芸に目を向けてみると、身近な草花や小さな虫にまで注がれる眼差しは、ジャポニスムやアール・ヌーヴォーの時代に限ったものではないことがよくわかります。最後の章では、日本の装飾芸術の誇るべき特質として、めぐる季節のなかで培われてきた自然に寄り添う姿勢を、工芸家たちのさまざまな表現を通してご紹介します。

＊サミュエル・ビング・編、大島清次、瀬木慎一、芳賀徹、池上忠治・翻訳、監修『藝術の日本：1888-1891（*Le Japon artistique*）』1981年、美術公論社

図版No.9
板谷波山《葆光彩磁牡丹文様花瓶》
1922年

図版No.10
森口華弘《駒織縮緬地友禅訪問着　早流》
1961年

図版No.11
松田権六《蒔絵玉すだれ文盤》
1953年

開催概要

展覧会名（日）	**めぐるアール・ヌーヴォー展　モードのなかの日本工芸とデザイン**
展覧会名（英）	*The Cyclical Nature of Art Nouveau and the Stylistic Influence of Japanese Crafts and Design*
会期	2021年12月25日［土］— 2022年3月21日［月・祝］ ＊会期中、一部展示替えがあります。 （前期：2021年12月25日～2022年2月6日、後期：2022年2月8日～3月21日）
会場	国立工芸館 〒920-0963　石川県金沢市出羽町3-2
主催	東京国立近代美術館
開館時間	午前9時30分～午後5時30分　※入館は閉館の30分前まで
休館日	月曜日（1/10、3/21は開館）、年末年始（12月27日～1月1日）、1月11日（火）
アクセス	バスにて JR金沢駅兼六園口（東口）より 【北鉄バス】 3番乗り場：18系統に乗車、「広坂・21世紀美術館(石浦神社前)」下車徒歩7分 7番乗り場：どの系統でも乗車可、 「広坂・21世紀美術館(しいのき迎賓館前)」下車徒歩9分 6番乗り場：乗車(「柳橋」行を除く)、「出羽町」下車徒歩7分 車にて 北陸自動車道金沢西ICまたは金沢森本ICから20～30分。 近隣に文化施設共用駐車場（無料）があります。
観覧料	一般　　300円（250円） 大学生　150円（ 70円） ※（　）内は20名以上の団体料金および割引料金 ※いずれも消費税込 〇無料対象：高校生以下および18歳未満、65歳以上、 MOMATパスポート・学パスをお持ちの方、友の会・賛助会員の方、 MOMAT支援サークルパートナー企業（同伴者1名まで、シルバーパートナーは本人のみ）、キャンパスメンバーズ、障害者手帳をお持ちの方と付添者（1名） 〇割引対象：石川県立美術館・金沢２１世紀美術館・石川県立歴史博物館・ 石川県立伝統産業工芸館（いしかわ生活工芸ミュージアム）・ 金沢市立中村記念美術館・金沢ふるさと偉人館の主催展覧会入場券半券、 ならびにSAMURAIパスポート （一般のみ）を窓口で提示した方。
イベント	※決まり次第、ホームページにてお知らせいたします。
本展の特記事項	オンラインによる事前予約(日時指定・定員制)を導入します。 また若干数、当日券もご用意しています。 詳細は公式WEB（https://www.momat.go.jp/cg/）でご確認ください。
公式HP	https://www.momat.go.jp/cg/
掲載用 お問い合わせ先	Tel：050-5541-8600（ハローダイヤル）

報道関係の方のお問い合わせ先　**国立工芸館**　展覧会担当／中尾　広報担当／藤田・小島
Tel：076-221-1955（広報直通）　E-mail：kogei-pr@momat.go.jp

国立工芸館
National Crafts Museum

広報用図版 請求票

FAX：076-221-1969 広報担当　行
発信日　　　年　　月　　日

☑	No.	作品
	1	展覧会ポスター
	2	アンリ・ヴァン・ド・ヴェルド《トロポン》　1898年頃
	3	アルフォンス・ミュシャ《サラ・ベルナール》　1896年
	4	初代宮川香山《色入菖蒲図花瓶》　1897-1912年頃
	5	二代横山彌左衛門《菊花文飾壺》　1886-89年頃
	6	杉浦非水『三十六年』 第1号　1902年
	7	杉浦非水《三越呉服店　新館落成》　1914年
	8	四代清水六兵衞《萱艸模様螺鈿応用花瓶》　1913年頃　京都国立近代美術館蔵
	9	板谷波山《葆光彩磁牡丹文様花瓶》　1922年
	10	森口華弘《駒織縮緬地友禅訪問着　早流》　1961年
	11	松田権六《蒔絵玉すだれ文盤》　1953年

*上記作品は8以外 東京国立近代美術館蔵

ご希望の図版の左枠内に☑を入れてFAXまたはメールでお送りください。

■クレジット
4は「撮影：アローアートワークス©2006」、6, 7は「撮影：アローアートワークス©2000」、9は「撮影：エス・アンド・ティ フォト ©2018 」、10, 11は「撮影者：米田太三郎 ©1978」と表記してください。

■プレス・イメージ貸出条件
1. 画像は、展覧会広報のみにご使用ください。
2. データを第三者に渡すことは禁じます。使用後、画像データは消去してください。
3. 画像は全図で使用してください。作品部分のトリミング、作品に文字を重ねることはできません。（背景は可）
4. 画像を掲載される際には、貸出時に添付するキャプション・クレジットをご記載ください。
5. 掲載紙（誌）は、1部広報担当宛にご寄贈ください。web サイトの場合は、掲載時にお知らせください。

※画像データ(JPEG)にてお貸出いたします。その際、一緒にお送りするキャプションもご確認ください。
※掲載前に、校正紙をお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。

御芳名　　　　　　　　　　　　貴社名

出版物・放送番組・webサイト名など（発行日等）：

URL　https://www.

TEL　　　　　　　　　　　　　FAX

E-MAIL

＊展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券をご用意しております。
プレゼント用招待券を　　希望する（ 5 組　10 枚 ）　／　希望しない

招待券送付先：〒

報道関係のお問合せ先
国立工芸館　広報担当／藤田・小島
TEL：076-221-1955（広報直通）　FAX：076-221-1969
E-mail：kogei-pr@momat.go.jp　公式HP:https://www.momat.go.jp/cg/